

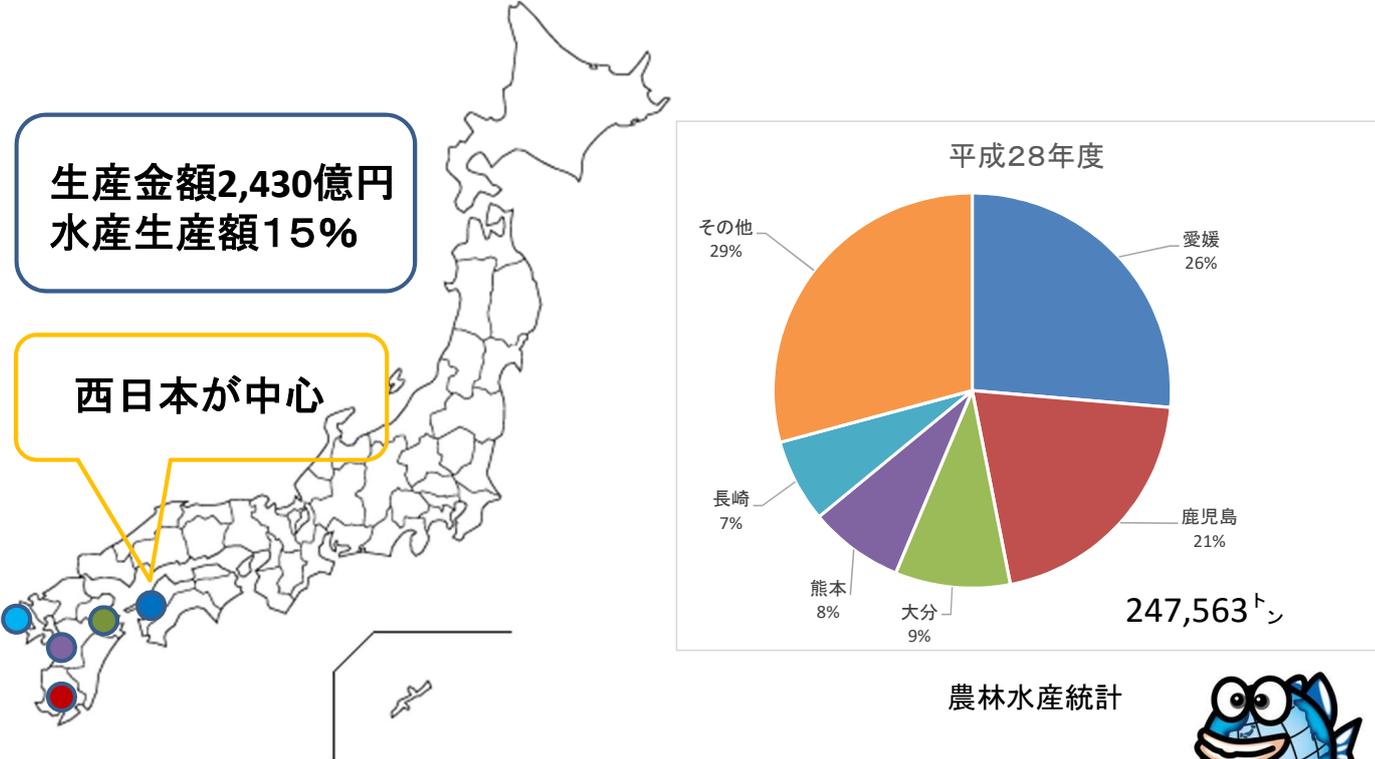
魚類養殖業と水環境等を巡る課題について

平成30年8月22日

一般社団法人 全国海水養魚協会
専務理事 中平博史



魚類養殖業の規模・主要産地



魚類養殖業の課題

1. プラクトン自身が有毒物質を保持しており、魚が中毒死する。
 または、プラクトンが枯死するときに有毒物質を放出する。

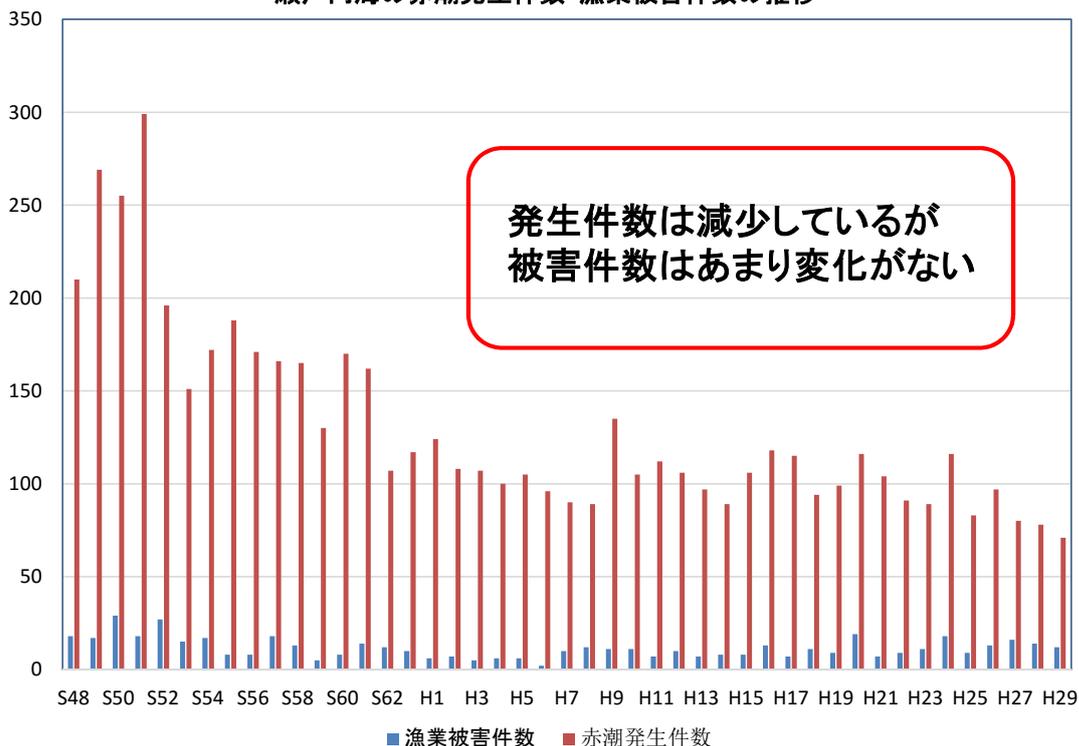
2. プラクトンが水中に大量に存在すると、魚のエラに付着して障害を起こし、魚が呼吸困難になる。

3. プラクトンが枯死して分解されるときに、大量の水中の酸素を消費することにより、水中の酸素が無くなり酸欠状態となり魚が窒息死する



魚類養殖業の赤潮被害状況

瀬戸内海の赤潮発生件数・漁業被害件数の推移



発生件数は減少しているが
 被害件数はあまり変化がない



赤潮発生機構

- 1.赤潮プラクトンは多種多様で、水域により赤潮発生メカニズムが特異的である。
- 2.赤潮プランクトンは常に水中に存在しており、条件が整えばいつでも増殖する。
- 3.水温・PH・塩分濃度などの物理的環境が赤潮プランクトンの発生に適した条件になることで増殖する。
- 4.水中の窒素・リン・有機物など栄養塩類が過剰に供給されることも大きな要因となる。
5. プランクトンの集積には、風・波・潮流などの他律的要因と自身の移動による自律的要因がある。



4

魚類養殖業の環境保全(赤潮)対策

- 1.養殖密度の低減
- 2.生餌→モイストペレット→人工飼料(EP)
- 3.生け簀の形体(沈下・大型化)
- 4.環境調査への協力
- 5.餌止め・生け簀の移動・粘土石灰などの散布
- 6.漁場改善計画への参画



5

魚類養殖業の安定成長化

